

橋口 丈

はしぐち じょう／出版文化産業振興財団（JPIC）所属。JPICでは、読みきかせの講習会のほか、「上野の森 親子フェスタ」「ゆかいに漱石」「辞書を読む」「オーサー・ビジット校外編」など多様な読書推進活動に取り組んでいる。

ひろがる！
ひろがる！
紙しばい

14

JPIC（出版文化産業振興財団）は、出版に関わる人材育成や、読書推進活動を行っている団体です。活動の一つとして、全国のボランティアに向けて絵本の読みきかせの講習会を行ってきました。現在では、おもに初心者の方を対象とした「JPIC読みきかせサポーター講習会」と、おはなし会にもうひと工夫加えたい方に向けた「JPIC読みきかせサポーター実践講座」の二種類のプログラムで開催しています。二〇一六年度は、両プログラム合わせて全国三地域を訪問予定で、一二月末時点で二五地域・二五七四名の方がたにご参加いただいています。

さて、昨年度からJPICでは、重心社のご協力のもと「JPIC読みきかせサポーター実践講座」に紙芝居講座を取り入れることとなりました。以前より「紙芝居講座の時間を設けてほしい」という要望が多く寄せられており、その声に後押しされる形で、「読みきかせ」の講習会にも独立した紙芝居講座の時間を設けることができました。講師には〈紙芝居文化の会〉から経験豊富な方がたをご推薦いただき、約百名の参加者に向けて、演じ方から実演まで丁寧に指導をいただいています。この講座は大変な人気で、参加者からは「今まで踏み出せなかった紙芝居を始めようと思った」「マイ紙芝居を見つけられます」「す

JPICの 取り組みと 紙芝居の魅力



紙芝居講座の様子

っと自己流でやってきたが、基礎を学ぶことができて良かった」など、たくさん喜びの声をいただいております。講習会の参加者数も前年に比べて各会場平均二〇名程増えており、紙芝居への関心の高さを肌で感じていきます。

このように、紙芝居の人気を日々感じているのですが、紙芝居の良さとは一体どこにあるのでしょうか。私は、参加者を深い集中へと誘う、その独特の魅力にあるのではないかと思います。木製の美しい舞台、場面を抜くときの紙の音、演じ手の優しい声……。紙芝居の世界へ入っていき、そこでゆったりと漂うのは日常では味わえぬ心地良さがあります。子どもたちにとって（あるいは大人にとっても）、現実世界と豊かな物語世界を往き来するのは、心のバランスを保つ上でもとても大切なことではないでしょうか。私の好きな夏目漱石の『草枕』に次のような文章があります。

「越す事のならぬ世が住みにくければ、住みにくい所をどれほどか、寛容で、束の間（ま）の命を、束の間でも住みよくせねばならぬ。ここに詩人という天職が出来て、ここに画家という使命が降る。あらゆる芸術の士は人の世を長閑にし、人の心を豊かにするが故に尊い」

JPICの講習会をきっかけに、人びとの心を豊かにするような演じ手がたくさん生まれれば、この上ない喜びです。